

「平成28年熊本地震」の 消防団の活動について

～「頑ばるバイ 熊本!」、「負けんバイ 熊本!」～

(一財) 熊本県消防協会
会長 大原明和



1 はじめに

このたびの熊本地震に際しまして、日本消防協会ははじめ全国の消防協会並びに消防団の皆様などから、丁寧なお見舞いや心温まる励ましを賜り、深く感謝と御礼を申し上げます。

今回の地震は、「まさか、熊本でこんな大地震が起こるなんて!」と、誰もがそう思ったに違いありません。天災は、いつどこで起こるか予想がつかいませんし、まさに何の前触れもなく突然襲ってきて、平穏な日常生活を一瞬にして一変させてしまうということを、改めて痛感させられました。

私どもの被災体験をこの紙面を通じて皆様にお伝えすることで、少しでも皆さんの防災対策の一助になれば幸いです。

2 消防団の活動状況

まず、被災地消防団の活動状況についてですが、熊本県災害対策本部のまとめでは、5月25日現在、県内45市町村のうち、調査中の4市町村を除く20市町村から被害状況等の報告があがっています。この中で、消防団員の出動延べ人数は、4月14日の地震発生から5月25日までの42日間で、4万1千358人を数え、団員総数(20市町村全体:2万2千255人)の約2倍となっています。

今回の地震では、多くの消防団員が被災しましたが、「自分たちの地域は自分たちが守る」という強い信念のもと、各団員は、地震発生直後から、住民の安否確認や避難誘導、さらには消火活動や救助活動などを

精力的に行いました。

特に、被害の大きかった益城町や西原村、南阿蘇村では、地域を熟知している地元消防団員の手によって、倒壊家屋に取り残された住民がたくさん救出されました。

ピーク時には800を超えた避難所では、支援物資等の搬入作業や配布支援、炊き出しなどを行いました。

また、震災後、留守宅を狙った空き巣被害が多発しましたが、地元消防団員が昼夜を問わず地域のパトロールを積極的に実施し、犯罪の未然防止を図りました。

次に、被災地における消防団活動の主なものを紹介します。

○南阿蘇村消防団

地震(本震)による影響で主要道路が寸断され、救助機関等が到着できなかったため、消防団のみで直ちに救助活動等を開始

①震災発生直後の活動

- ・個々に声かけをしながら安否確認・救助活動を行い、倒壊家屋から5名の住民を救助
- ・翌朝(4月17日)から、安否不明者の情報収集、被害状況の巡視・確認
- ・土砂崩落現場での除去作業

②その後の活動

- ・避難所において、支援物資の搬入支援、給水活動
- ・地域内における不審者警戒のための巡回活動
- ・災害現場への進入規制や消防隊・警察車両の交通誘導



震災後、土砂崩れ現場で活動する消防団員

○西原村消防団

地震（本震）において多くの建物が被災したため、救助機関等の到着を待つことなく、震災直後から救助活動等を開始

①震災発生直後の活動

- ・安否確認・救助活動を行い、倒壊家屋から7名の住民を救助
- ・住民の避難誘導、高齢の避難者への声かけ、危険箇所の巡視・確認

②その後の活動

- ・避難所において、支援物資の搬入支援、給水活動
- ・地域内における不審者警戒のための巡回活動、がれきの撤去
- ・道路応急補修、水道復旧作業などについて、村役場等と連携して対応



震災後、倒壊家屋のがれき撤去作業を行う消防団員

○益城町消防団

①震災発生直後の活動

- ・火災発生時（4月14日の前震時）における消火活動
- ・倒壊家屋から多数の住民を救助
- ・同報系防災行政無線が使用できなくなったことから、巡回による広報活動を実施

②その後の活動

- ・倒壊家屋、土砂災害等の状況調査
- ・地域内における道路上のがれきの撤去
- ・地域内における不審者警戒のための巡回活動
- ・避難所へ誘導・搬送。避難所において、支援物資の搬入支援、給水活動

○八代市消防団

- ・火災発生時（4月16日の本震時）における消火活動
- ・堤防一部崩落の応急処置、土砂崩れの前兆の確認
- ・避難所におけるエコノミークラス症候群の注意喚起



地震発生時に出火した家屋の消火活動を行う消防団員

○熊本市消防団

避難所における活動

- ・エコノミークラス症候群の注意喚起
- ・大学生による機能別消防団員（熊本市防災サポーター）が支援物資を仕分け
- ・避難所において炊き出し、給水活動

また、女性消防団も避難所において、

- ・女性及び高齢者に配慮した声かけや荷物移動のサポート（玉名市消防団）
- ・高齢者を中心に、要望や困っていることがないかなどの声かけ（八代市消防団）等のきめ細やかな活動を実施

3 おわりに

地震発生から6月2日でちょうど50日が経過しましたが、熊本では、今なお不自由な避難生活を余儀なくされている方がたくさんおられ、被災者の生活再建と継続的な支援が今後の課題となっております。

災害はないに越したことはありませんが、万が一にも、災害が発生した場合は、まずは人的被害を極力なくすとともに、被害を最小限にとどめるようにすることが何よりも大切です。

「備えあれば憂いなし」。普段から「想定外」をなくす努力と、災害への備えを万全なものにしておく必要があります。

震災の復旧・復興への道のりは長く険しいものと思われませんが、これから熊本県民一丸となって復旧・復興に取り組んで参ります。「頑ばるバイ熊本!」「負けんバイ熊本!」今後とも皆様方のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。